

大阪青山短大 ○宮沢モリエ 奈良女大家政 梁瀬度子・磯田憲生 京都教育大 榊原典子
 広島大教育 岩重博文 新潟大教育 五十嵐由利子 江南女短大 水野由美

<目的> 第1報¹⁾と同じである。ここでは前報に続き大阪・愛知地区を追加報告すると共に、5地区をまとめ室温と着衣の関係を中心に比較検討を行う。

<方法> 第1報と同じである。

<結果> 愛知地区の閉鎖的住宅では夏冬共にエアコン使用がみられるに対し、解放的住宅では冬季の暖房が中心である。冬季の寒い側の申告は18℃であらわれている。大阪地区では夏季に良好と考える室温は約28℃であり、冬季は着衣による調節がなされ厚着の傾向にある。良好と考える室温は高齢者男性、女子大生で約23℃であった。

5地区における夏季の高齢男性着衣量はほぼ0.2-0.8clo、女性で0.4-0.7clo、両者とも温熱的中性室温は24-32℃の範囲であり女性のクーラー使用は男性より少ない。女子大生の温熱的中性室温は22-32℃と高齢女性に比べ若干低めである。また、冬季では室温低下に対し高齢者の着衣の増加量が著しく高い。愛知で1.7clo、大阪地区で1.6-2clo、新潟では2.5cloで室温26℃の場合もみられた。全体に高齢者の着衣量は大学生に比べ高い値を示す。高齢者の住居内暖房は20℃以下が多く、これは寒さを凌げる程度の室温である。着衣による調節もあり寒さに対して強い傾向がみられた。高齢者に対する実態を考慮した室温範囲は着衣量を夏季0.2-0.7clo、冬季1.0-1.5cloとし、作業を0.8-1metとするとASHRAEの快適範囲とほぼ同等かやや高い温度すなわち夏季25-29℃、冬季20-25℃が快適な室温の目安となると考えられる。

1) 磯田憲生他：高齢者の温熱環境に関する実態測定 第1報，日本家政学会第41回大会研究発表要旨集，1989，p207